

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2770105464		
法人名	アンドライフサービス株式会社		
事業所名	グループホーム北花田		
所在地	大阪府堺市北区新堀町2丁119		
自己評価作成日	平成22年1月12日	評価結果市町村受理日	平成22年4月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2770105464&SCD=370
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常磐町2丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成22年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・地域の保育園、自治会の子供会との交流も引き続き活発に取り組んでいる。 ・利用者一人一人の誕生日には、保育園の園児達がホームまで来てお祝いの歌、利用者の名前入りの季節に沿った絵を一緒に戴く。その日はその利用者一人が主役です。利用者の部屋には園児から戴いた絵が何枚も飾ってあります。 ・介護現場に起こりうる利用者の身体的急変事態の対応について、職員一人一人が不安に感じている事を個々に学習し、社内研修に結びつけ、意見交換を実施する事でサービス向上を図り、介護予防に繋いでいけるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>年6回の運営推進会議には自治会より会長・防犯担当等3名が出席され、自由な議論が展開されていると共に近隣の保育園2箇所及び自治会の子供達との交流など地域との連携は非常に深い。運営者が多角化の一環として地域に貢献したいという思いで開設した事業所は、全職員が常勤で利用者ごとに担当者を決め、心のこもった支援が実践されている。またウォッシュレット付トイレが完備された居室等のハード面やホームページでの財務状況公開等は異業種からの参入らしく素晴らしい。運営者・管理者及び職員一同は”笑顔”を大切によりハイレベルなサービスを目指している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域住民の一人として、「安心家族—地域と融和をはかり、利用者様に喜んでいただけるサービスの提供」と理念を掲げ、フロアや事務所内に掲示すると共に職員ミーティングや申し送りを通じ、理念の実践に向け、日々取り組んでいる。	地域社会に貢献したいという運営者の思いを職員一同は理解し、ユニットごとに理念を分かり易く掲示し、笑顔をモットーに理念の実践に日々取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加や保育園、自治会の子供会との交流、ホーム開催の行事へお誘いする等交流が図れるよう努めている。	自治会に加入して地域の盆踊り等の行事に参加している。近隣の保育園2箇所との交流や事業所主催の夕涼み会に近隣の方々を招いたりして地域コミュニティの場所となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で、近隣の方を含めた出席者より意見を頂、ホームとして地域の方々を対象にお知らせ、勉強に繋がる内容も取り入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、取り組みの状況や問題等報告を踏まえ、意見を頂いて話し合い、地域の一員としてサービス向上に努めている。	2カ月に1回開催され、自治会より数名、民生委員、地域包括センター及び家族がメンバーで年間71名が参加している。行事報告にとどまらずフリートークの時間を作り活発な意見が展開されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者の状態に沿った相談や意見交換にてアドバイスを頂、サービスの向上に取り組んでいる。	運営に関して相談したいことは積極的に堺市本庁に行き、指導を仰いでいる。運営推進会議では地域包括センターから近隣との防災連携の意見を真摯に聞いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修、職員ミーティング等で具体的な禁止となる行為等正しく理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、玄関の鍵は開所当初行政より指導もあり施錠しているが、内玄関はベルを付ける等で施錠なしの対応に取り組んでいる。	職員会議や社内研修で身体拘束を原則行わないことを徹底しているがやむを得ず過去1回家族の同意を得て実施したことはある。ユニット間の行き来は自由に行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部勉強会への参加、社内研修を実施している他、職員ミーティング等で、考えられる内容の検討事例を元に話を盛り込むようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部勉強会へ参加し、社内研修にて理解を深めている。また、必要対象者に対しては活用に結び付けるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を十分に取って説明させて頂いている。不安や疑問点等はなしやすい環境作りに努め、理解、納得が得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	随時、面会時等声かけしやすい雰囲気作りを心がけている。また、意見箱の設置を行い、間接的な対応も可能とすると共に、家族アンケートを実施し、家族からの意見が反映できるように取り組んでいる。	家族の来訪は多く、その機会に出来るだけ意見を聞くように努めている。年1回家族のアンケートから意向を職員会議で検討している。運営推進会議での家族の些細な意見も大切にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員ミーティングや運営会議で意見を出し合い、検討している。また、その他意見しやすい環境作りを心がけている。	職員会議や運営会議で職員の意見が出しやすい環境に努めている。ユニットリーダーは日々の職員意見を管理者に伝え、ミーティングで検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の考えや取り組みの把握に努め、声かけと会話をする上で、個々が持っている力を見つけ、その力が発揮できる環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時にはもちろん、必要に応じてその職員に合った内容、その状況に合った内容の研修を開催、実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回地域グループホーム管理者が集まり、勉強会や情報、意見交換から地域一体となった工場に努めている。また、以外のグループホームとも勉強会や意見交換を実施しサービスの向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談、面接、入所ごと利用者一人一人の状況を把握し、声かけや傾聴に気を配る事で、安心して過ごせるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談、面接、契約、入所後とその時に応じた内容を持って話を聞き、返答を心がけ、信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応については、現在の生活の様子や、本人の意向を大切に、他機関でのサービスもしやに合わせた対応を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と一緒に献立を考えたり、レシピから選んでいただいたり、その人が持っている力が発揮できる環境作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ひまわり通信やお便りでホームでの生活の様子をお知らせすると共に、家族との外出や外泊、行事への参加等一緒に過ごせる時間作りをし、家族間の信頼関係の維持が出来るよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や兄弟、馴染みの友人、知人との関係を大切にすると共に、今まで通っていたスーパーへ買物、散歩など関係が途切れないよう支援している。	家族は頻繁に来訪している。知人等の来訪も大いに歓迎している。近隣のスーパーでの買い物やレストラン等に出向き馴染みの場所作りを行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の利用者の行動を把握し、利用者がお互いにかかわりが出来る環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後でも、状況に合った対応や相談に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の様子や会話の中から、希望や意向を把握し、本人の意向に近付けるよう考慮している。	日々、寄り添うことでまた一人ひとりに対する担当者は固定されているので希望や意向の把握は微細に記録され、また職員会議で発表され共有が図られている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所までに、今までの生活環境や日課の確認を、家族や担当ケアマネージャー等との連携を図るようし、本人らしい生活が維持できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所時、生活歴やできること・できないことシートを家族へ依頼している。本人の状態を把握した上で、無理のなく有する能力が発揮でき、楽しく過ごせる様努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の日々の様子を常に把握し、定期的モニタリングを行い、気付きや変化等担当者会議を元に新たな介護計画を話し合い、利用者がより快適生活が維持できる様努めている。	毎月新鮮な眼でまた3ヶ月1回のモニタリングを実施し、6ヶ月1回の計画の見直しが行われている。変化があったときは即計画の見直しもチームで実施されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活を個人記録として残し、いつでも閲覧できるようにしている。情報を共有しながらプランの見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族が安心して暮らし続けて頂けるよう、必要な時に必要なサービスが提供できるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受入れ、消防訓練を通して指導を戴く等、安心かつ安全を目指して支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の意向を大切に、かかりつけ医へスムーズに受診できるよう医師との連携が図れるように支援している。	入居以前からのかかりつけ医とは家族の協力を得ながら受診を継続している。家族の了解の下で協力医療機関のかかりつけ医は月2回の往診があり、また毎週1回歯科医の往診が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々のかかりつけ医への相談はもちろん、協力医療機関の看護師とも細かい情報を元に相談するように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時情報シートに記載して情報提供に努め、入院後も環境の変化の軽減が図れるよう、面会時等話を聞き、病院関係者との情報交換や相談に努め、関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族が望んでいる事、思いを理解し、状態に応じて随時家族や医師と話し合い、本人にとって安心して過ごせるよう対応方法を決めている。	早い段階から家族や医師と繰り返し相談し対応しているが事業所として重度化対応指針書が作成されておらず、家族の同意が得られていない。	運営者と管理者は重度化に向けての対応を今一度検討しているとの事だが、この機会に関係者と相談しながら書類化し、家族の同意を得るとともに、職員の意識の向上を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応マニュアルを設置し、いつでも閲覧できるようにしている。また、利用者の状態に応じて随時対応を申請し、迅速に対応できるように定期的に取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施し、避難経路や緊急連絡などスムーズに対応できるよう確認を行っている。また、近隣の協力をいただけるよう運営推進会議の場で説明をし、日ごろの挨拶や会話の名アでも協力が得られるよう心がけている。	年2回消防訓練や避難訓練を実施している。事業所の前がグループの母体企業で平日の日中は何かあれば支援要請が出来る。夜間は防災マニュアルを作り、繰り返し話し合うと共に自治会に日頃から協力を依頼している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として敬う気持ちを持ち、敬語を基本にわかりやすい言葉使いで対応を心がけている。	利用者に対する言葉遣いや利用者があるところでの職員間の申し送り等プライバシーを損ねないように配慮している。定期的にプライバシーの確保に於ける研修会を実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が話しやすい環境作りの努め、本人から訴えなどがある時には居室でゆっくりと話を傾聴し、本人の意思を尊重すると共に活気のある生活が出来る様な支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の普段の生活の様子やその時の気持ちを大切に、希望に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人一人長年なじんだ身だしなみやおしゃれを尊重し、いつでも元気ある生活が維持できるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の持っている力を把握し、利用者と一緒に参加しながら個々がそれぞれ発揮できるよう支援している。	利用者は出来る範囲で食事作り、盛り付け、片付けを行っている。土曜日は一人ひとりの希望を聞いて食材を買い手作りしている。みんなで一緒に楽しく食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	依頼業者の栄養士による献立、栄養のバランスを基本として、個々の身体状態を把握しながら状況により接種できるようこまめな水分摂取に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の出来る力に応じて見守りと介助に努めている。又、週1回の歯科往診による口腔ケアや義歯調整の受診、歯科医による指導の元口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の1日の排泄リズムを把握し、声かけや時間に沿ってのトイレ誘導により、自立に向けた排泄が出来るよう支援している。	可能な限りオムツ使用をしないようにしている。利用者ごとの担当者は排泄パターンを把握し、自然な声掛け誘導で対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者一人一人に応じて排便の状態を把握し、水分補給や繊維質の多い食材を取り入れ、毎朝ラジオ体操から始まり、プランに沿った運動を心がけて取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の身体状態を把握し、希望に沿った時間に入浴できるよう支援している。又、入浴は個々の気持ちを発散できる場であり、職員とのコミュニケーションを図れる場として支援している。	回数や入浴時間等に制限はなく、日中何時でもまた毎日楽しく入浴される利用者もいる。入浴時に職員が寄り添うことによる体の変化も見落とさないようにチェックしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣やその日の体調を把握し、フロアで過ごしていただいたり、居室にて休息する時間を持つ等落ち着いた日中を過ごして頂く事で、安眠へ繋げていけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人一人の薬表を作成し、目的や用法を理解し、薬の変更があれば確実に送り、職員全員が薬表で再度確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の取っている力を尊重し、それが発揮できる環境作りに努め、本人にとって自身に繋がりが、楽しい生活が維持できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の体調を把握し、希望に沿って買物や近隣の散歩等戸外へ出かけられるよう努めている。又、家族と一緒に温泉や食事へスムーズに出かけられるよう支援をしている。	日常近隣の神社やスーパーでの買い物に出かけている。四季折々車を使って花見や紅葉狩り等に出かけている。年1回バス旅行も企画している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理や買物の見守り等、一人一人の力に応じて自分の好きな物を買ったり、自分で支払が出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に沿って、本人自身が電話できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の好みや生活感を大切にし、家庭的で快適な生活空間が感じられる様、中庭にも花や木々を植え、落ち着きのある環境を心がけている。	広々とした食堂や居間・浴室・車椅子用トイレがあり、廊下も広く家族や保育園児が作った飾りつけがあちこちにきれいに展示されている。菜園を作り利用者と一緒に収穫したり、プランタンには花が植えられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファの配置、観葉植物を利用してフロアで皆がひとつの事を楽しんだり、一人一人が自分の趣味に取り組んだり出来るよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や写真、置物等家族の方と一緒に飾ったり、好みの物を置く事により、落ち着いた雰囲気作りと過ごしやすい環境作りに心がけている。	入口は居室ごとに違った飾りつけがなされとてもかわいい。部屋には馴染みのタンスなどが置かれ、衣類の種類が書かれている。全室洗面、トイレが完備されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の残存機能を大切にし、歩行の為に手すりや、利用者がフロアでも良く過ごせる環境作りに努めている。又、各居室には名前入りの表札やプレートを付ける等工夫し、安心して生活が出来るよう支援している。		